

アニマルパスウェイを通して  
 松園小学校 五年 荒井 心々愛  
 アニマルパスウェイを知っていますか。私  
 はこの本を読むまで知りませんでした。アニ  
 マルパスウェイとは、動物たちの歩道橋です。  
 道路や都市開発によって寸断されてしまっ  
 た森林と森林をつなぎ、動物たちがエサを求めたり、  
 オスとメスが出会えるようにまさに橋渡しを  
 する橋です。この本は、国の天然記念物のヤ  
 マネを研究していく上でヤマネの保護を目的  
 とし、この橋を用意し、研究と実験を重ねた  
 話でした。  
 私たちにできることはまず、知ること。そ  
 して、声をあげること。そう思って両親に話  
 をすると、両親も興味を示してくれた上で、  
 それぞれ本を読み、  
 百聞は一見にしかず、本物を見に行こうと  
 いうことになりました。  
 そんなわけで、夏休みに山梨県北杜市高根  
 町清里にあるやまねニコージアムに家族と

っ てきました。ここでは、ヤマネの生態やア  
 ニマルパスウェイのことが詳しく展示されて  
 いました。ヤマネの研究員の郷場葉留果さん  
 がヤマネについてくわしく説明してくれました  
 た。そしてなんと、著者でもあり、ヤマネシ  
 ュージアムの館長でもある漆秋作さんにお会  
 いすることになりました。漆さんはアニマル  
 パスウェイの重要さと、盛岡市にもあること  
 を教えてくれました。  
 帰りながら車から北杜市のアニマルパスウ  
 ェイを見ました。車通りの少ないところは車  
 からおりて近くで見ってみました。本の通り、  
 動物のためのサインズで、思っていたよりも小  
 さく、目立たないものでした。柱の根本には  
 ヤマネの好きな木々が植えられてあり、自然  
 と一体となっていていました。  
 本を読んで、現地を見て、色々考えました。  
 高速道路や車の通りの多い道路では、こ  
 動物たちが道路をおたっ て行き来でき  
 る状態  
 ではありませんでした。このままでは動物た

ちの交通事故が絶えないでしょう。だからこ  
 そアニマルパスウエイが動物たちにと、てし  
 ても重要だと思いましたが。アニマルパスウエイ  
 を知、てもらい、理解してもらうこと。  
 父はアニマルパスウエイを開発することには  
 協力している会社に勤めています。本社で、  
 も、とりあげてもらえるようにかけあって  
 くれること、今後仕事現場では必ずまたネた  
 ちなびの動物の生活を守ることを考えて工事  
 を進めてくれることを約束してくれました。  
 母は、「これから大人になるみんなに知、て  
 もらわれないとね」と言、て学校の図書室にポ  
 ップを作、て見やすく展示してくるそうで  
 す。  
 私だけの力はほんの少しですが、日本中、  
 世界中でも増え、動物と人間が共生できる  
 環境になるといいなと思います。